

# 第29回日本精神科救急学会学術総会

モーニングセミナー 2

## エビデンスとリアルワールドの視点から 考える双極性障害躁病エピソードの 薬物療法

令和3年10月24日(日) 8:50-9:50

座長

竹内 賢 先生

公益財団法人星総合病院 星ヶ丘病院 院長

演者

三浦 至 先生

福島県立医科大学医学部 神経精神医学講座 准教授

本会は現地開催を予定して準備を進めて参りましたが、新型コロナウイルス感染症の影響が先行き不透明な中、参加される皆様の安全と感染拡大防止を最優先に考え、ライブ配信にて開催することに致しました。

【注意事項】 学会ホームページより参加登録が必要となります。  
学会ホームページURL/QRコード

<http://www.congre.co.jp/jaep2021/index.html>



共催

第29回日本精神科救急学会学術総会 / 東和薬品株式会社

# エビデンスとリアルワールドの視点から考える 双極性障害躁病エピソードの薬物療法

三浦 至 先生

福島県立医科大学医学部 神経精神医学講座 准教授

## 抄録

精神科救急で遭遇するさまざまな臨床像の中でも、双極性障害の躁病エピソードでは躁病性の興奮や過活動、症例によってはアルコール・薬物使用の問題や他の行動的・社会的問題、さらに精神病症状を伴う場合は幻覚や妄想など極めて活発な急性期症状が出現するため、その治療には迅速かつ確実な臨床効果が求められる。急性躁病エピソードの薬物治療では、日本を含む各国の治療ガイドラインにおいてリチウムやバルプロ酸などの古典的気分安定薬、第二世代抗精神病薬、その両者の併用が推奨されていることが多く、標準的治療の位置づけとなっている。これらの推奨は当然ながら無作為化比較試験やそれらの系統的レビュー、メタ解析等の結果から成り立っておりエビデンスに基づいた治療ということになるわけだが、前述した通り急性かつ重症の躁病エピソードでは激しい精神症状や行動上の問題を含むこともあり、特に鎮静作用が比較的少ない第二世代抗精神病薬では十分に対応できない症例もあると思われる。このようなリアルワールドの臨床場面においては第一世代抗精神病薬の即効性・有効性を支持する意見もあり、エビデンスだけではなく臨床現場から得られた経験知も重要とされている。もちろん個々の薬剤・治療法にともなう副作用も含めて綿密な検討が必要だが、標準的な治療で対応困難な症例に対しては柔軟な治療選択肢や対応が必要になると考えられる。

一方、双極性障害は再発をとめない長期にわたる治療が必要であり、急性のエピソードが消退した後もその後の気分エピソード再発を予防する維持療法が重要となる。実際の臨床場面でも躁病エピソード後のうつ転などは遭遇することが多く、さらに双極性うつ病は長期化することしばしばあるためこの予防は特に重要と考えられる。近年、維持療法に関する重要なエビデンスが報告・集積されてきており、さまざまな薬剤の極性特性、すなわち薬剤によって予防する気分エピソードの極性に違いがあることが分かってきている。また、気分安定薬単独と気分安定薬と第二世代抗精神病薬との併用とでは気分エピソードの再発予防効果が異なることも報告されており、これらは長期にわたる双極性障害治療を組み立てていくのに重要な示唆を与えてくれる。このような維持期における再発予防効果のエビデンスを踏まえて、急性期から維持期を見据えた薬物治療戦略を立てていく必要があるだろう。

本セミナーでは、急性躁病エピソードの薬物治療、さらに維持期の再発予防を念頭に入れた急性期治療について、実際の臨床場面を踏まえてエビデンスとリアルワールドの両方の視点から考察する。

## 三浦 至 先生 ご略歴

2000年3月 山形大学医学部医学科 卒業

2000年4月～2021年4月 福島県立医科大学医学部 神経精神医学講座/  
(財)星総合病院 星ヶ丘病院 精神・神経科など

2011年5月～ 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座 助教

2013年～2014年 Division of Psychiatry Research, The Zucker Hillside Hospital(米国)留学

2015年5月 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座 講師

2016年10月 同 准教授